

小項目評価の論点に関する検討結果(案)について

資料1

第1 府民に提供するサービスの質の向上

番号	項目	自己評価	案	判断理由・コメント(案)
8	成人病センター 難治性がん患者に対する手術実施体制の拡充	Ⅲ	Ⅳ	・麻酔医の確保が困難な中で1名増員したほか、手術待ち解消のための工夫がなされている。 ・難治性がん手術件数についても目標を大幅に上回っている。
9	成人病センター 臨床腫瘍科・外来化学療養室の拡充	Ⅲ	Ⅳ	・専門スタッフの確保や患者のアメニティ向上にも取り組んでいる。 ・病床利用率、利用件数のいずれも目標を大きく上回っている。
11	母子保健総合医療センター 手術実施体制の拡充(18年度着手)	Ⅲ	Ⅳ	・小児科医、麻酔科医の確保が困難な中で、手術スタッフを確保したほか、他病院との連携にも取り組んでいる。 ・手術件数についても、目標を大きく上回っている。
13	母子保健総合医療センター 高度医療を受けた小児・家族の心のケア等	Ⅲ	Ⅳ	・ホスピタルプレイスペシャリストのによる療養支援は全国でも少なく先進的で優れた取組みである。
17	看護師職制の再編成、病院運営への参画体制の強化	Ⅲ	Ⅳ	・法人化初年度における現場の体制づくりは、積極的に評価されるべきものである。 ・現場の声を経営に反映させただけでなく、柔軟な病床運営や病室環境の改善など、具体的な成果もあった。
19	病床利用率の向上	Ⅱ	Ⅱ又はⅢ	・病床利用率は医業収益の重要な要素の一つであり、医業収益は目標に至っていない。 ・中期計画で設定した病床利用率の目標は高水準であり、3病院は前年度の実績を上回っている。 ・在院日数が短縮化する中、退院患者数、入院患者数は増加し、診療単価も上昇傾向。 【資料4】
20	紹介率の向上	Ⅲ	Ⅲ	・成人病センター、母子保健総合医療センターについては、中期計画目標レベルに達している。
21	入院医療の標準化 クリニカルパス適用の推進	Ⅳ	Ⅳ	・各病院の実情に応じた取組が行われ、目標設定した4病院がいずれも前年度を上回っている。 ・精神医療センターにおいても試行的運用を実施。 ・今後、クリニカルパスの質的向上を図るとともに、チーム医療として成果が得られるよう運用面での取組を期待。
26	呼吸器・アレルギー医療センターの 医療施策の実施機関としての役割	Ⅱ	Ⅱ又はⅢ	・多剤耐性結核患者へ集学的治療や検査、肺がん診断の局所麻酔下胸腔検査、気管支喘息、アトピー性皮膚炎治療などハイレベルな医療サービスを提供していると認められる。 ・参考指標である患者数については、概ね前年度を下回っている。 ・今後、参考指標について再検討する余地があるのではないかと。 【資料5】
28	成人病センターの医療施策の実施機関としての役割	Ⅳ	Ⅳ	・難治性がん医療に積極的に取り組み、難治性がん手術件数が前年度を大きく上回っている。 ・平成19年1月に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定された。
29	母子保健総合医療センターの 医療施策の実施機関としての役割	Ⅳ	Ⅳ	・多胎妊婦などハイリスク妊産婦や超低出生体重児に対して、高度専門的な治療に取り組んだ。 ・双子以上の分娩件数、新生児を含む1歳未満児の手術件数、母体緊急搬送受入れ件数が前年度を上回った。
38	待ち時間の改善	Ⅱ	Ⅱ	・各病院の実情に応じて、予約システムの改善等の取組みを行っている。 ・近年の各病院の待ち時間は、成人病センターを除く4病院が横ばいとなっている。 ・病院顧客満足度調査において、予約の履行や待ち時間の告知などが各病院の課題となっている。

第2 業務運営の改善及び効率化

番号	項目	自己評価	案	判断理由・コメント(案)
72	運営管理体制の整備 法人一丸となった医療・経営面の改善 各病院の自律的・機動的運営	Ⅳ	Ⅳ	・法人運営の基盤となる体制を整備し、経営意識を役員に浸透させ、経営改善に取り組んだ。 ・各病院に職員の採用や配置、予算配分の権限が委ねられ、自律的、主体的取組みが可能となった。 ・副院長会議や看護部長会議など横断的組織が立ち上げられ、医師の人事評価導入や看護師複数時期募集など、これまで実現しなかったことが、現場の声を反映し、速やかに実現している。 【資料6】
75	事務部門の常勤職員数の削減	Ⅲ	Ⅲ	・計画どおり常勤職員の削減を実施している。
76	民間等人材の活用、プロパー職員採用	Ⅲ	Ⅲ	・民間の医療事務の専門知識を有する人材の活用は評価。
85	18年度から5年間のSPD導入	Ⅲ	Ⅲ	・法人化のメリットを活かし、複数年契約でSPDを導入し、材料費の削減を図ったことを評価。
93	人件費の抑制	Ⅲ	Ⅲ	・計画どおり人件費の抑制に取り組んでいる。
94	材料費の節減	Ⅲ	Ⅲ	・計画どおり材料費の節減に取り組んでいる。